

令和4年度A日程  
学力検査問題

①

国語

注意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて7ページで、問題は□一から□四まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に  
**志願先高等学校名と受検番号**を書きなさい。
- 5 答えはすべて**解答用紙の指定された欄**に書きなさい。

志願先高等学校名

受検番号

高等学校

□ 次の(一)～(五)の問いに答えなさい。

(一) 次の1・2の文の——線部の漢字の読みがなを、それぞれ書きなさい。  
1 抑揚をつけて朗読する。 2 観客から拍手が湧く。

(二) 次の1・2の文の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書きなさい。  
1 役者のエンジユクした演技を味わう。 2 信頼関係をキズく。

(三) 次の行書で書かれた漢字の部首の名称を、ひらがなで書きなさい。

序

(四) 次の文について、後の1・2の問いに答えなさい。

先生から、「合唱は心を合わせる<sup>1</sup>ことが大事」というアドバイス<sup>2</sup>をもらったおかげで、納得のいくハーモニーが<sup>1</sup>つくれた<sup>2</sup>と思いますので、音楽発表会にはぜひおいでください。

1 ——線部1の「合わせる」の活用の種類を、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 五段活用    イ 上一段活用    ウ 下一段活用    エ サ行変格活用  
2 ——線部2の「もらった」を、適切な敬語表現に直して書きなさい。

(五) しおりさんは、国語の授業で俳句と季語について学習し、「風光る」「風薫る」という二つの季語について調べて、自分の考えを文章にまとめた。次の【カード】は、しおりさんが季語について調べた内容を書き写したものであり、【文章】は、しおりさんが調べたことをもとにして書いた文章である。また、後の【会話】は、しおりさんたちが、俳句について調べたり考えたりしたことについて話し合った内容の一部である。これらを読んで、後の1～5の問いに答えなさい。

【カード】

A 著作権保護のため掲載していません。

B 著作権保護のため掲載していません。

【文章】

著作権保護のため掲載していません。

【会話】

しおり 私は、二つの季語について本で調べて、考えたことを文章にまとめました。こうやって調べてみると、季語の大切さがとてもよくわかりました。

ともき 本場にそうですね。私は、正岡子規の「故郷ふるさとやどちらを見ても山笑ふ」という俳句について調べました。「山」に関係する季語もいろいろあるのですが、この句の、木の芽や花に包まれた明るい山の様子を表す「山笑ふ」という季語が、作者の故郷に対する愛着の気持ちを感じさせて、季語の効果がとても大きい句だと思いました。

1 【カード】中の[A]と[B]の「風光る」についての記述における、表現の特徴を説明したものととして適切でないものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア [A]も[B]も、「きらきら」という擬態語を使って、風の様子を表現している。

イ [A]は、科学的な根拠に基づく情景描写によって、[B]よりも明確に様子が伝わる。

ウ [A]は、敬体を用いて、読者に語りかけるような表現を交えて書かれている。

エ [B]には、体言止めの表現がみられ、簡潔で歯切れのよい印象になっている。

2 【文章】中の——線部ア～エのうち、助詞でないものを一つ選び、その記号を書きなさい。

3 【文章】中の [a] に当てはまる言葉として最も適切なものを、【カード】中から二字でそのまま抜き出して書きなさい。

4 【文章】中の [b] に当てはまる適切な言葉を、「それぞれの句の印象」という言葉を必ず使って、十五字以上二十字以内で書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

5 【会話】中の——線部の「故郷やどちらを見ても山笑ふ」と同じ季節を詠よんでいる俳句を、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

著作権保護のため掲載していません。

ア  
イ  
ウ  
エ

二 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中から次の一文を抜いてあるが、文章中の「ア」～「エ」のうち、どこに入れるのが最も適切か、記号で書きなさい。

ですが、これは特におかしなことではありません。

(二) 文章中の——線部1に「これはなかなか微妙な問題です」とあるが、その理由を筆者はどのように述べているか。その内容として最も適切なものを、次の「ア」～「エ」から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 対話は、たとえ双方が妥協してでも協定を結ぶことが重要なので、たんなる会話やおしゃべりでは意味がなく、最終的に合意できる地点を探ることが求められるものだから。

イ 対話は、二人が納得して決着するのに越したことはないが、徹底的に論じ尽くしてお互いを理解しながらも、自分の立場を貫き通すことが最も優先されるべきものだから。

ウ 対話は、合意に至ることよりも合意するまでの過程に大きな意味があるので、合意を目指す以上にできる限り幅広く話題を設定して、対話の時間を共有するべきものだから。

エ 対話は、必ずしも合意を最終的な目標とはしないが、一方で合意を目指すものだけでもなく、対話する二人の思いが限りなく一つに重なるところを理想とするものだから。

(三) 文章中の——線部2に「それを自覚しないで傲慢にもそれを利用しようとしたら、それこそ対話とは正反対の精神になってしまいます」とあるが、このことから筆者は「対話の精神」を、どのように対話を行うことだと捉えていると考えられるか。その内容を、「成果」という言葉を必ず使って、**六十文字以上八十文字以内**で書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

(四) この文章の内容と構成を説明したものととして最も適切なものを、次の「ア」～「エ」から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 初めに対話で取り上げるべき主題を明らかにし、次に政治家などの例を挙げながら、二人の人物が対話によって合意に到達することは不可能であるということを論じ、最後に対話において尊重するべき精神について指摘している。

イ 初めに対話において期待される合意の内容について述べ、次に対話するとき二人が目指す共通のものは何かということを考察し、最後に将棋というゲームにたとえて、意味のある対話を成立させることの難しさを指摘している。

ウ 初めに対話が目指すべき地点について説明し、次に対話の場の成立根拠として真理という言葉を挙げ、最後にソクラテスの言葉を引用しながら、対話において大切にすべき姿勢を述べたうえで、対話がもつ価値を指摘している。

エ 初めに対話はメッセージの伝達やたんなるおしゃべりであってはならないということを示し、次に対話で一つの真理を求める危険性について語り、最後に人間が対話によって生きがいや幸福を得られることを指摘している。

三 次の文章を読み、後の(一)・(二)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の——線部1に「それぞれの国の都市での住所における以上のような違いが、それを使う人間の感覚にもちよつとした違いを生んでいるのではないか」とあるが、筆者は、日本の住所の特徴とそれに関わる日本人の感覚について、どのようなことを述べているか。その内容を、次の**条件1・2**にしたがって書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

**条件1** 全体を六十字以上八十字以内にまとめること。

**条件2** 解答は「日本の住所は」で書き始めること。

(二) 文章中の——線部2に『『現在の地球』という惑星規模で起きている、文明単位の変化』とあるが、筆者は、「現在の地球」の状況をどのように捉えているか。また、そのような筆者の考えについて、あなたはどのように考えるか。次の**条件1・2**にしたがって書きなさい。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

**条件1** 全体を八十字以上百字以内にまとめること。

**条件2** 最初に、「現在の地球」についての筆者の考えを説明し、次に、それに対する自分の考えを、経験をふまえて書くこと。

【四】 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

今は昔、小野篁といひける人、愛宕寺を造りて、其の寺の料に鑄師を以て鐘を鑄させたりけるに、鑄師がいはいはく、「この鐘をば、つく人も無くて、十二時に鳴らさむとするなり。其れを、かく鑄て後、土に掘り埋みて、三年あらしむべきなり。今日より始めて三年に満てらむ日の其の明けむ日、掘り出だすべきなり。其れを、或いは日を足らしめず、或いは日を余して掘り開けたらむ、しかつく人も無くて十二時に鳴る事は、あるべからず。しかる構へをしたるなり」といひて、鑄師は返りに去りにけり。

さて土に掘り埋みてけるに、其の後別当にてありける法師、二年を過ぎて、三年といふに、未だ其の日に至らざりけるに、え待ち得ずして、心もとなかりけるままに、いふかひなく掘り開けてけり。しかれば、 は無くて、只ある鐘にてあるなりけり。「鑄師のいひけむ様に、其の日掘り出だしたらましかば、つく人も無くて十二時に鳴りなまし。さ鳴らましかば、鐘の音の聞き及ばむ所には時をもたしかに知り、めでたからまし。いみじく口惜しき事したる別当なり」となむ其の時の人いひ誇りける。

しかれば、騒がしく、物念じせざらむ人は、必ずかくつたなきなり。心愚かにて不信なるがいたす所なり。

(『今昔物語集』による)

(注) 小野篁：平安時代前期の漢詩人、歌人。

其の寺の料に：その寺で使うために。

鑄師：金属を溶かし、型に流し込んで器物を作る職人。

十二時：一日を十二等分した二時間ごとの時刻。

別当：寺全体を統括する僧。

(一) 文章中の~~~~線部の「いはいはく」を現代仮名遣いに直して、~~~~線部全部をひらがなで書きなさい。

(二) 文章中の に当てはまる言葉として適切なものを、文章中から十四字でそのまま抜き出して書きなさい。

(三) 文章中の——線部1と2の行為を行った者は、それぞれ誰か。次のア～エから一つずつ選び、その記号を書きなさい。

ア 小野篁

イ 鑄師

ウ 別当にてありける法師

エ 其の時の人

(四) この文章で述べられている内容の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 愛宕寺の鐘は、由緒ある高価な鐘であったので人目に触れないように土の中に隠されていたが、掘り出してみると平凡な鐘にすり替えられてしまったことから、貴重な物でも大切に過ぎるのは愚かなことであると述べている。

イ 愛宕寺の鐘は、有名な職人に命じて作らせた鐘で人々に大きな恩恵をもたらすはずであったが、土の中から掘り出す日を間違えたためにただの鐘になってしまったことから、何事もうっかりしているのは愚かなことであると述べている。

ウ 愛宕寺の鐘は、土の中で自然に鳴り出す不思議な鐘だと言われていたが、それが信じられず確かめようと思った人物が勝手に掘り出して鳴らなくなってしまったことから、信じる気持ちをもたないのは愚かなことであると述べている。

エ 愛宕寺の鐘は、特別な仕掛けが施された鐘であったが、仕掛けの条件である期日が守られずに土の中から掘り出されたために普通の鐘になってしまったことから、せっかちで我慢ができないのは愚かなことであると述べている。